

コード	401060102
記入日	H21.6.8

課コード	116
課名	水産課
課長名	太田 均
担当者	原 佳秀

事務事業事後評価表

作成年度	平成 21 年度
------	----------

評価対象事業名称	全国鯨フォーラム2008開催事業
----------	------------------

事業種類	単年度事業
事業期間	平成 20 年度 ~ 平成 20 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	4	政策名称	自立する産業の育成、雇用の確保	款コード	6
施策コード	401	施策名称	水産業の振興	項コード	3
基本事業コード	40106	基本事業名称	魅力ある漁村づくり	目コード	2
事務事業コード	4010601	事務事業名称	水産業振興事業補助金費(漁村づくり)	細目コード	857
関連計画			法令・条例規則等		

計画 (PLAN)		※単年度事業及び単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。									
対象: 誰、何を対象にしているのか				対象指標: 対象の大きさを表す指標							
(対象1)		町外参加者		(対象指標1)		150人					
(対象2)		町内参加者		(対象指標2)		3, 000人					
事業の概要: 具体的なやり方、手順、詳細を記入				活動指標: 事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)							
(全体)		(評価年度実績)		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)			
鯨の持続的利用を図るためIWCにおける日本の立場を理解し、鯨食文化の伝承を図るため全国の捕鯨ゆかりの地より参加していただく鯨フォーラムを開催する。		基調講演、パネルディスカッションの開催、鯨博士の出張授業の開催、民間団体ウーマンズフォーラム魚による鯨講演会の開催、鯨フォーラム祭り(物産展)の開催		***		***	***	フォーラム開催回数÷開催計画回数	***		
				フォーラム開催		1回	100%		平成20年度		
				(達成率分析)		計画どおり開催をした。					
				②		(達成率分析)					
目的: 何をしたいのか				成果指標: 目的の達成度を表す指標・達成率 (上段: 全体、下段: 評価年度)							
新上五島地域の鯨に関する伝統や文化を全国に発信し、併せて次世代を担う子供達に今の捕鯨の状況を伝え、捕鯨の必要性を訴える。				(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)			
				***		***	***	参加者実績数130人÷参加予定者数150人	***		
				町外参加者		130人	87%		平成20年度		
				(達成率分析)		捕鯨を守る全国自治体の首長及び捕鯨団体関係者の参加が予定より少なかった。					
				②		(達成率分析)					
				***		***	***	参加者数/計画参加者数	***		
				町内参加者数		1000人	33.3%		平成20年度		
				(達成率分析)		町民の参加を得て本町を含め全国的な鯨文化を共有することができた。					

実施 (DO) ※単年度事業及び単年度繰返事業については、評価実績年度及び全体計画欄のみ記載する。					
	単位	全体計画	H 20 ~ H 20	平成19年度以前	平成20年度
		計画	実績	実績	計画 実績
活動指標	① 回	1	1		1 1
	②				
成果指標	① 人	150	130		150 130
	② 人	3,000	1,000		3,000 1,000
総事業費C (A+B)		千円	8,500	8,100	8,500 8,100
直接事業費 A		千円	5,000	4,600	5,000 4,600
人件費 B		千円	3,500	3,500	3,500 3,500
内訳	従事職員数	人	0.5	0.5	0.5 0.5
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000 7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円			
	県補助金	千円			
	起債	千円			
	その他	千円	4,000	4,000	4,000 4,000
一般財源		千円	4,500	4,100	4,500 4,100

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありましたか。	● はい ● いいえ	理由	捕鯨に関する全国の自治体の首長とその関係者が、本町の捕鯨の歴史と食文化に触れることで、全国に新上五島町のPRをすることができた。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありましたか。	● はい ● いいえ	理由	伝統捕鯨の地域として、IWC(国際捕鯨委員会)における日本の立場を後押しする必要がある。
	事業の対象・目的は適切でしたか。	● はい ● いいえ	理由	鯨資源の持続的利用を図るため、捕鯨の再開を目指すこととした取組であることから、適切である。
有効性	事業の目的は達成されましたか。	● はい ● いいえ	理由	長く続いている商業捕鯨一時停止の解除と調査捕鯨の重要性を訴えることができた。
	成果を向上させる余地はありませんでしたか。	● はい ● いいえ	理由	招待した首長や水産庁職員及び捕鯨三団体からは、ほぼ全員出席し、町内への宿泊と飲食そして購買によって一定の成果が得られた。
	事業を行わない場合の影響はありませんでしたか。	● はい ● いいえ	理由	本町の捕鯨の歴史と文化が時代とともに薄れていくことが考えられる。
	類似事業との整理統合はできませんでしたか。	● はい ● いいえ	理由	類似事業はない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんでしたか。	● はい ● いいえ	理由	地元団体の協力により、ボランティアにて推進できた事業もあり、事業費は極力抑えられた。
	人件費を削減することはできませんでしたか。	● はい ● いいえ	理由	担当職員は最小人数で実施した。
	受益者負担は適正でしたか。	● はい ● いいえ	理由	受益者は不特定のため負担金はない。

改善(ACTION)

1次評価	○今後の関連事業に対する改善点 なし
	○目的が達成されていない場合の課題と改善策 なし
2次評価	全国規模の鯨フォーラム開催で本町のPRにつながっている。

住民等の意見	
町の対応	

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。